

産業医 東海林 文夫 氏

訪問

第3回
株式会社三交社産業医

産業医 東海林 文夫 氏

泌尿器科の臨床から公衆衛生へ転身

私は1972年に新潟大学医学部を卒業した後、東京大学医学部泌尿器科学教室に入りました。

東京大学医学部付属病院・分院や関連病院で22年間、泌尿器科専門医として診療と研究を行ってきました。さらに、社会的な疾病予防を実践したいと思うようになり、行政の立場から公衆衛生の仕事に携わることにしました。

最初に台東区の浅草保健所予防課長に就任しました。それから練馬保健所、東京都衛生局医療福祉部の特殊疾病対



策課長、三鷹武蔵野保健所長、多摩川保健所長、多摩小平保健所長、葛飾区保健所長、そして中央区保健所長を歴任し、定年を迎えました。

病院では、一日中、外来に病室、手術と忙しく働いていました。一方保健所では、とにかく席にいて次々と回ってくる書類に目を通し、それに会議や打ち合わせなど、当初は職務の違いに戸惑いましたが、事業を進めていく中で行政のシステムを学びました。

保健所時代には感染症対策、食中毒対策、精神障害者と家族支援に特に取り組みました。

浅草保健所の管轄には、大阪の西成保健所に次いで全国2番目に結核が多いといわれている山谷地区がありました。そこで、いわゆるホームレスの人たちの結核を減らすために、夏に現地で検診車による臨時結核検診を行い、結核患者の早期発見、早期治療に努めました。

新型インフルエンザが流行った時は中央区保健所にいました。患者発生時

の対処、感染拡大防止対策、事業継続計画作成と推進など、昼夜を問わず保健所が丸となって対応しました。

東日本震災では東京都と23区が一体となり、職員を被災地に派遣しました。支援活動は、1週間は戻って来られませんが、小さな子どもがいる保健師も積極的に参加し、東京都の保健師として活躍したことに感謝しています。

社員と経営者の架け橋になりたい

定年を迎えた2012年に、次の仕事として東京都予防医学協会（協会）を紹介されました。健康診断での診察が主な仕事です。20年以上臨床から離れていたのがかなり不安でしたが、保健所のOBがたくさん働いていると聞いて安心しました。

勤め始めて1年ほど経った頃、協会の紹介で株式会社三交社と嘱託産業医契約を結びました。産業医資格は、保健所も1カ所で100〜150人の職員が働く事業場でしたので、保健所長時代に取得しました。

三交社は印刷、製本、入出力、デザインなどを行う社員50人ほどの会社です。テレビ局から依頼される台本の印刷と製本が主な仕事で、急な注文にも対応するために、社員は24時間体制で働いています。

私に求められているのは、毎月の職場巡視及び社員の健康管理と健康に関

する情報提供、職場作業環境の改善に関する助言です。

現在（1月時点）気をつけているのは、インフルエンザ対策です。感染予防のためにワクチン接種を積極的にすすめています。また、万が一、インフルエンザが発生した場合に対応できる体制を整備しました。

安全衛生委員会は、各部署から1人

ずつ委員を出してもらい、5人で構成しています。その中で職場巡視結果と健康情報を毎月提供しています。

新聞の健康・医療欄からがんや生活習慣病、医療費、栄養、平均寿命などに関する記事をチョイスして、わかりやすく解説するようにしています。

会社はビルのワンフロアを占めていますが、3年前に、細かく仕切られていたレイアウトを整理して職場環境を改善しました。タバコ対策は、室内禁煙ですが、排煙できる一人用喫煙室も設けています。

その他、印刷機をしっかりと固定する、照度不足の場所をなくすなど職場の安全対策と作業環境改善を行いました。パソコン作業が多いので、VDT症候群予防には特に力を入れています。

産業医活動を通して、経営者には「健康な社員がいてこそその会社」、社員には「会社も自分たちの健康を守っている」を伝えたいと思います。